西　の　き　ず　な

小平西地区・地域ネットワーク　ニュースNo.21

2017年3月11日（土）発行　　発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）

TEL：042-346-5639（白梅学園大学企画調整室）　　住所：〒187-8570　東京都小平市小川町1-830

白梅学園と大学まちづくりの実践

―小平西地区ネットワークづくり５周年を迎えて―

小松隆二（白梅学園理事長）

白梅学園の大学づくりは、大学まちづくりの理念・方法を基本とする。地域・まちとつながり無く、ただ大学やキャンパスをつくるのではなく、まちづくりの理念・方法で、地域・住民の皆さんと連携・協力しつつ、大学をつくり、発展させるという発想・理念である。地域と大学は相互に協力・貢献し合う関係に立つことによってこそ、どちらも、改革や発展をより良いものにできるという理解である。

日本では、地域と大学は長い間、お互いに無関心を装い、ある程度以上は接近したがらなかった。漸く近年に至って、地域と大学が接近すると、如何にプラスの多いものになるかが理解されだしたのである。白梅学園および大学の将来構想も、基本となる方向性・支えの一つは、「学園まちづくり」「大学まちづくり」の理念である。

白梅学園で、そのような方針が訴えられだしたのは、１５年ほど前からである。欧米ではごく当り前の発想・理念であったが、日本では当時も今もまだ定着していない。小平学の発想も、その頃からであった。それに合わせて、大学では少しずつ地域活動に力を入れだした。

しかし、白梅学園が本格的に地域活動にのりだすのは、東日本大震災後のことである。この西地区のネットワークづくりの活動・事業もその一つであった。

その活動が本年３月でちょうど５周年を迎える。この活動が始まってから、学園内に地域の人、特に高齢の人が目立つようになった。そういった人たちと学生が話し合う光景、連れだって歩いている光景がよく見られるようになった。またそういった地域の人と学生を含む大学の共同活動や集会もみられるようになり、私も何度か参加させていただいた。

大学が地域に貢献し、地域も大学に信頼を寄せ、貢献もする。そのようなつながりが目立つ大学には将来への夢も希望も湧いてくる。白梅学園もその一つになってほしいと願っている。

西地区の大学と地域の共同活動の５周年を心から祝い、今後さらに継続・発展するようお祈り申し上げる次第である。

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なＮＰＯ、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

西ネット第24回（本年度3回）懇談会報告

瀧口優（白梅学園短期大学 保育科）

寒さが厳しくなった12月20日、白梅学園大学において小平西地区地域ネットワーク（以下「西ネット」）第24回懇談会が開催されました。懇談会は3か月に1回行われ、今年度3回目にあたります。はじめに「西ネット」を代表して草野先生から挨拶があり、引き続いて本学の家族地域支援学科教授山路憲夫教授から「小平学・まちづくり研究所の発足にあたって」の講演がありました。詳細は別途山路先生の原稿がありますので、そちらを参照してください。

講演では、今地域は放置すれば、協同に生活していくところからバラバラになってしまう危機にあり、地域を「まちづくり」の観点から研究し、創造していく必要があるという視点が語られました。市民の皆さんの参加も呼びかけています。質問では高齢者になると自治会から抜けていく問題にどう対処したらよいのか、元気な高齢者をどのように活かしていくのか、そして強いリーダーが必要ではないか等、切実な声が寄せられました。

更に、地域からの発言では、地域の問題は地域で決めていくという姿勢と、地域包括支援にからんで、4月から始まるより狭い範囲での支援活動を進めていかなければならないなど、前向きな発言もあり活気に満ちた会になりました。小平の東地区在住の方からの「（小平西地区だけでなく）東も見捨てないで欲しい」発言で締めくくりました。後半は４ブロックに分かれて参加者が分散し、それぞれの地域の課題について話し合いました。

今年度の小川西町公民館主催講座を振り返って

島田智通（小川西町公民館）

小平市の公民館では、社会教育団体（サークル）への施設の貸し出しや活動支援を始め、講座やイベントを企画・実施し、多種多様な学ぶ機会を提供しています。

小川西町公民館では、今年度シニア講座、家庭教育講座、ジュニア講座、夜間講座、地域連携講座などを開催するとともに、小川西町公民館友の会と小川西町公民館まつりを実施しました。紙幅の関係で一部になりますが、今年度の小川西町公民館主催講座について簡単に振り返ってみたいと思います。

家庭教育講座では、ベビーマッサージの講座を開催しました。乳児と保護者が対象であったことから、同じ子育ての不安や悩みを持つ保護者同士、講座の回を重ねるごとに打ち解け、子育てのみならず様々な情報交換を行いました。数回にわたりサークル化に向けて話合いを行った結果、サークルとして活動することになりました。

ジュニア講座では、市内の製菓店や専門学校からパティシエを講師としてお招きし、親子対象のお菓子づくり教室を開催しました。参加した保護者からは、「子どもと楽しみを共有でき、ゆとりのある穏やかな時間を過ごすことができた」と感想が寄せられました。

小平市の公民館は「集う」「学ぶ」「結ぶ」といった公民館の基本的な役割を活かしながら、地域におけるコミュニティづくりの推進に努めていくとともに、世代を越えた学習や交流の場として地域社会の発展に寄与していきます。

来年度も各館ごとに特色のある事業を進めてまいります。よろしくお願いいたします。

鈴木公民館まつりに参加して

細江　卓朗（福島キッズプロジェクトin小平）

第１２回鈴木公民館まつり

本日のプログラム

1、開会の挨拶　13:00～13:05
鈴木公民館　塚田紀夫

2、被災地支援活動　13:05～13:40
ふくしまキッズプロジェクトin小平　細江　卓朗

3、福島復興支援ツアー報告 13:40～14:20
白梅学園大学　子ども学部子ども学科
林奈央、杉本比華莉

4、熊本地震支援活動　14:20～15:00
朝比奈　理奈子

福島での経験を語る細江さん

錦城高校新聞

題字　井口　文章
再刊　第２１６号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2016

みんなでつくる
錦城高校新聞

今も続く支援「震災を忘れないで」

地元小平で震災後の取り組みを知る

支援活動を語る

11月27日（日）に小平市内の鈴木公民館で第12回鈴木公民館まつりが開催され、その一環で、震災の被災地への支援活動と防災についての講演会が行われた。講演会に参加して、支援活動などの話を聞いた。

講演は、東日本大震災の復興支援活動を行う細江卓朗さん、「福島復興支援ツアー」で被災地を訪れたという白梅学園大学4年生の林奈央さんと杉本比華莉さん、熊本地震支援活動を行った朝比奈理奈子さんが行った。

今も続く福島への支援

細江さんが紹介する「ふくしまキッズプロジェクトin小平」は、小平市民有志で福島の子供たちを小平市の保養施設のある清里に招待し、思い切り外遊びをしてもらおうという取り組みだ。原発事故を忘れず、子供たちを支援していくために、今年もボランティア100名の協力を経て、取り組みが続けられている。

熊本の様子を語る朝比奈さん

「福島復興支援ツアー」に参加した林さんと杉本さんは「噂に惑わされないでください」と話す。風評被害が深刻で、地元の人があげた野菜がパーキングエリアに捨てられたこともあるという。実際は、多くの地域で放射線量は通常値までさがっており、安全が確保されている。福島のためにも福島産の野菜を食べてほしいと二人は語る。

私たちに出来ることとは

熊本地震の支援活動として、絵本作家の方と避難所を読み聞かせしてまわったという朝比奈さん。大変な状況の中反対する声もあったが、少しでも助けになろうと活動を続けたそうだ。朝比奈さんは「反対意見や厳しい声があっても、やると決めたら、やりきることはとても大切です」と力強く語った。

林さんと杉本さんは、今すぐにでも防災バッグを用意しておくべきだという。女性に持っておいてほしいのが生理用品だそうだ。出血時に止血に役立つ他、おむつの代わりにもなるので便利らしい。

そして私たちが今すぐ始めるべきなのは「挨拶による地域のネットワーク作り」だと細江さんは強調した。もしものとき、地域にネットワークが出来ているか否かが鍵となるそうだ。

地震や水害など多くの災害が近年続いている。震災を忘れず、教訓を生かしていきたい。

（桜）

第12回鈴木公民館祭りが11月25日（金）～27日（日）開催されました。鈴木公民館では東日本大震災が発災した2011年秋の公民館まつりから被災地支援を大きなテーマと掲げて、館長自身も何度も被災地に足を運んでおられます。

私は、2014年の第10回から鈴木公民館に依頼され被災地支援の報告をしており、第11回には石巻の２つのNPOの代表の方をお呼びして報告していただきました。

第12回も依頼されて正直話す内容などで悩みましたが、昨年2月に白梅学園大学山路ゼミの学生が企画し私がコーディネートした、福島復興支援ツアーの内容を報告してもらいました。このツアーは、白梅学園大学を主に、嘉悦大学、武蔵野美術大学22名の学生が、福島県飯館村や福島市内の飯館村仮設住宅を訪問し、被災地の状況を見て、被災された方からお話を伺うというものです。

報告に参加された福島から避難してきている方が、「学生が福島に行ったこんな報告が聞けるとは思ってもいなかった」と感激されたり、白梅の学生の報告は好評でした。

更に当日の報告会に、錦城高校新聞部の１年生が取材にきていて、１２月２０日発行の錦城高校新聞に掲載されたことです。報告の内容を的確にとらえ良くまとまっていて、こういった広がりを本当に嬉しく感じています。

尚、先月2月26日、27日に第2回の福島復興支援ツアーを開催。白梅、工学院、武蔵美、大東文化、中央の学生21名が、福島を訪問し学んで来ました。

報告する山路ゼミの杉本さん、林さん

錦城高校新聞部の記者と談笑

○「分かった会」に参加して

私がこの「分かった会」に加わるきっかけは、小平市学園西町で昨年７月から始まった、お年寄りの居場所「交流サロンこげら」のボランティアに携わってすぐでした。私が塾の講師の経験があると話すと、「もう一ヶ所やってみない？」と言われ、昨年９月初めに見学し、微力ながらもお手伝いしようと思いました。折しも、中学３年生を対象に火曜日も行うとのことで、最初から濃密に関わらせて頂くことになりました。

子ども達を教えるのは久し振りなので、初めはとても緊張し、不安に思ったのを思い出します。でも、子ども達や先生方と触れ合ううちに、徐々に緊張も解け、今では楽しく接しています。最近は、生徒の趣味の話なども交えて教えていると、勉強以外の話が多くなる時が出てきて、元に戻すのに苦心します。初心を忘れないよう自問しています。

趣味の話からもそうですが、教えていると、こちらが教えてもらうことも多くあり、毎回ワクワクします。生徒や先生方共々、お互い高めあっていければ、と思います。

課題もあります。現在２月で中３生は追い込み中ですが、文章を書くことに不慣れな子もいて、受験に限らず将来的にも「何か書くことが大切だ」と指導しています。こちらが焦らぬよう、あと数回ですが、何とか作文の重要さに気付けるようにしたいです。

最後になりますが、中３生の卒業を無事見届け、新年度を清々しい気持ちで迎えられるよう頑張ります。

（吉田正之）

分かった会

大学１年生の時に「わかった会」と出会い、気づけば毎週木曜日、ここ（「わかった会」）に来ることを楽しみにしている自分がいます。教員を目指す上で、子ども理解や学習指導に役立てたいという思いから参加した学習支援ですが、目の前の課題に対して夢中になって取り組む子どもと大人のやり取りに、人と人の繋がりの温かさを感じ、心を動かされていきました。

ときには子どもたちから鋭い質問を受け、自分の勉強不足を反省することや、何気ないつぶやきにはっとさせられることがあります。そういう子どもたちの真っ直ぐさや鋭さは、新鮮さをもって心に迫り、自分自身のものの見方や考え方を見つめ直すきっかけになっています。人生の先輩である講師の方々からは、様々な助言や「一緒に頑張りましょう」などの温かい励ましの言葉をいただき、教員への夢に向かって進んでいく大きな力となりました。

「わかった会」での活動を通して学んだ、目の前の子どもに寄り添い、ともに学んでいく姿勢を、これからも大切にしていきたいです。

おかげさまで今年度の東京都の小学校教員採用試験に合格し、4月から教壇に立つことになりました。今後もよろしくお願いします。

松井友莉那（白梅学園大学4年）

縁が円になり、防災クエストで繋がるこの町

菊地ゆみ（小平市青少年対策上宿小地区委員会 ）

「お兄さん達が公園にペンキで落書きをしていた…。」昔の事になるが、ある夕方児童から電話を受けた。状況を聞くとメンバーが絞られ『水性なのに安かったなぁ！』と嬉しそうに自転車に乗り走っていったとの情報も入り、翌日・・・落書きグループは、保護者と青少対の監督の下に落書きを消す事になった。安かったと思っていた水性ペンキは、下の段で、買ったのが油性ペンキだったのはアンラッキーたった。これが私と防災クエストの最初の縁でした。
この件で市役所に謝罪に行った際“緑化推進委員”応募を勧められ故早田氏に会った「縁」が「円」へと広がり始めた瞬間だったのかもしれない。その後、早田氏から西ブロックの存在を委員会の中で伺い、氏と共に自由遊びの会主宰の防災訓練に参加し、取材に来たのが菊地七瀬さんでした。彼女が作り上げた「防災クエスト」は、防災のプロも認める出来栄えでアッと言う間に社会福祉協議会も含め市内の青少対で広まっていきました。
昨秋、早田氏は惜しくもお亡くなりになりましたが、早田氏の縁は、防災クエストを通し、広がっていっている・・・。
落書きも縁・出会いも縁・惜別も縁・・・縁は、多くの人の手を結びながら円になっている事を今、私は実感しています。

○ボランティアスタッフとして参加

12月3日、小平市立上宿小学校で行われた第32回上宿まつりにボランティアスタッフとして家族・地域支援学科 教養基礎演習、午頭ゼミの皆で参加しました。

当日は多くの小学生や地域の方が参加され、活気ある雰囲気の中で行われました。

私自身、小学校に行くのは久しぶりでしたので、懐かしい小学校時代と重ねながら、遊んでる子ども達を見守ったり、接しました。

ボランティアとしては小学校前の道路を封鎖し、交通整備をしました。車もバイクも通らない道路、それは子ども達にとって遊び場がまた一つ増えたかのように走り回ったり、寝そべってみたり、はしゃいだりする姿が見られました。

私たちや他のボランティアスタッフが交通整備をしたことで〝何も通らない道路〟＝〝安心・安全で自由な遊び場〟が生まれたのです。普段は遊べない場所で遊べる嬉しさや喜びを子ども達から感じたと共に懐かしさを感じた瞬間でした。
この上宿まつりを通して、新たな出会いや発見が出来、改めて地域交流の大切さや重要さを学びました。白梅学園大学に入学し、地域交流の機会も増え、色々な出会いが出来ました。地域交流は日常生活の中でも多くの機会があると思います。しかしその機会を逃したり、一歩踏み出せていない自分がいます。この上宿まつりでの経験を生かし、今後は子ども達の発想や遊びに触れる機会を自ら探求していき、地域交流をより大切にしていきたいと感じました。

村越 匠斗（家族・地域支援学科1年）

「小平学・まちづくり研究所」をなぜ設立したのか

山路憲夫 （白梅学園大学教授）

○地域学としての「小平学」の役割

自分たちが住む地域とはどんな地域なのか。その地域の歴史や地誌をきちんと知りたい。子育てや子どもの教育、介護や医療といった、避けて通れない課題に誰しも直面する。地域に関わりなく全国に共通する法律や制度だけではなく、地域にどんな制度や仕組みがあるのか。そこでどんな人々が関わり、どういう役割を果たしているのか。地域によって異なる特性、特徴を知り、学問的に深めることで、地域が抱える課題を解決していきたい。

2016年末、白梅学園大学に初めての研究所として「小平学・まちづくり研究所」を立ち上げたのは、そうした問題意識からである。

研究所の目的は「小平市の総合的な研究を進め、小平というまちの歴史、実態、特徴を一つの体系として実証的・理論的に検証し、位置づける。小平に関するあらゆることに目を向け、さらに全体像を明らかにする」ことである。

そのために

▼小平に関するあらゆることに目を向ける。
▼小平の持つ良さ、特徴、個性を見出す。
▼その一方で課題、問題点を明らかにし、小平のより良いまちづくり、より良い暮らしに寄与する。
▼個々の研究、成果について学の構築を目指す視点で積み上げ、総合化、体系化を図る。
▼研究所は小平学の拠点として、研究の成果を発信していく。

以上のような柱で進めていきたい。

○「小平学・まちづくり研究所」が目指すもの

小平市という地域を改めて概観すると

▼一点集中の街ではない。駅も繁華街も分散する。まとまりが欠ける。
▼強く印象付ける特徴がない。
▼道路の狭さ、未整備のところもあり、電柱、電線が目立つ。
▼モデルとなるような住宅地、住宅街がない。
▼高齢者が安心して住めるコミュニティがほしい。
▼大学は多いが、学園都市というイメージが薄い。

以上のような課題がある。この中でも小平市もまた高齢化が加速し、認知症を含めた要介護高齢者の増加に伴う深刻化する課題の解決に迫られる。

一方で、白梅学園大学も関わる西地区ネットワークに集う住民の方々をみても、地域の居場所づくり、街を活性化させるイベントやネットワークづくりに取り組む住民も少なくない。おそらく多摩地区でも指折りの住民活動の活発な地域といえるだろう。

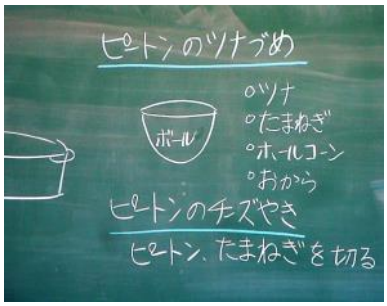
そうした市民の力を活用して「小平学・まちづくり研究所」は小平のまちづくりに資する役割を果たしていきたい。

ピートンと食育

柳下　登

本紙に江戸時代の小平の江戸時代の農の営みに見られる「結」について書いた。そして農地を多く持つ今日の西地域のコミュニティー形成に「食育」を位置づけることを提案した。

今回はピーマンでもパプリカでもないピートンによる小平での「食育」につきレポートする。



ピートンとはピーマンとトウガラシ（トンガラシ）のハイブリッドで50年かかって育成したものである。これにはピートン1世とピートン2世の２品種があり、いずれも農水省登録品種となった。1世は普通のトウガラシでは実のさきがとがっているが、それがピーマンのようにへこんでいる世界でも珍しい形をしている。大きさは小指ほどで味は辛い。2世は1世を大きく改良したもので、実の長さは7から10ｃｍ、太さは3から4ｃｍの円筒形をしている。果皮は厚く、辛くなくほんのりと甘い。この2世は。東京産の新野菜として愛好者により普及されている。

一例として小平の小学生のクラブ活動として栄養士の先生とその協力者によってこの

2、３年間栽培されている。味が良く鮮紅色できれいなことや栄養価もあるので給食に採用されている。生徒は自分が栽培したピートン2世の実を食べることで関心が高い。また栽培過程を観察しスケッチしたりして夏休みの自由研究としている。

2016年夏、栄養士の先生の主宰で「夏休みスペシャル”作ってたべてみよう“」が生徒、父母の参加でおこなわれた。その主菜は「ピートンのツナづめ」と「ピートンのチーズ焼き」で生徒全員が先生のレシピをもとに調理した。ピートンは地産地消の立場から小平産のものが使われた。食後の感想で、”苦いと思っていたがおいしかった”が聞かれ、育成者として嬉しかった。

規模は小さいが、ピートンをツールとして小平での食育が実現した。生徒は栽培、観察、記録、調理と総合学習。人のつながりは新品種育成者、ピートンを紹介してくださった愛好家、教師とその協力者、生

徒、父母。生産者であった。コミュニケーションを作るには、そのためのツールまたはキーになるものを何にするかを考えなければ、無手勝流とはいかない。それをこの事例で学んだ。今は現在使っている農園で土を耕し、モノを作る人たちのコミュニティーができればと考えている。

白梅幼稚園作品展

高橋敬子 （白梅幼稚園）

1. 白梅幼稚園の歴史

白梅幼稚園は、杉並区高円寺に昭和25年に誕生し、昭和45年、現在の小平に移転が完了しまして、今年で創立67周年になります。白梅学園大学のキャンパス内に有り、園庭にはメタセコイアがシンボルツリーとしてそびえ立っていて、子どもたちの遊びを見守ってくれています。

幼稚園は創設以来、子どもを人間として大切にし（その子らしく生きていくこと）、子ども自らが皆で生活していくことのねうちを知っていく中で、共に考え行動して問題を解決し、自分たちで自分たちの生活を作っていく姿を目指しています。

2. 作品展

11月下旬、幼稚園は子どもたちの生活を見て頂く“作品展”を開いています。子どもにとっての造形（つくる）・描画（えがく）

活動は、”自分の世界を持つ“　”その世界を広げて行く”ことの積み重ねです。目的を持ち仲間と協同して生活する中で、技術や方法を知り、自分の力とし、表現することの面白さを一人ひとりが発見していくのです。

遊びや活動の中で描いた絵の中から子ども自身が選んだ自慢の一点が、一層素敵になるように、手作りの額をつけています。

発達に合わせて、いろいろな素材に触れる機会を作っていますが、作ってあそび、遊んで気付いて又作る…この繋がり、変化、成長を御覧頂けるよう作品を展示しています。ぜひ一度子どもの世界をのぞきにいらしてください。

「第1回東圏域地域ケア会議報告

細江　卓朗（コミュニティ・サロンほっとスペースさつき）

11月8日（火）、平成28年度第一回東圏域地域ケア会議が鈴木公民館で開催されました。

テーマは「住み慣れた地域での居場所作りについて」で、ゲストとして「コミュニティ・サロンほっとスペースさつき」と「さ

くら喫茶」が居場所作りについて報告しました。出席者は、地域の自治会、NPO、ボランティアなど居場所作りに関心のある市民35名。

さつきからは渡辺代表と私が参加して、始めた経緯、居場所作りに必要な3要素や利用者受け入れに当たって注意すべきこと、さつきの立ち上げから現在までの活動内容を報告しました。

さくら喫茶の菊地さんは、以前多摩済生ケアセンターで報告した時に聞きに見えたことがあり、見守りボランティア4名が上水南公民館で9月23日から始められました。

報告の後、2グループに分かれて意見交換会。そこで出た意見の一部です。

- ほっとスペースさつきとさくら喫茶のお話が聞けてよかったです。いろいろな人たちが出入りできる場所は、素敵だと思いました。
- 居場所、地域で集まれる場所を求めている声が多くあり、つながりが必要と思いました。同じように居場所、カフェでなくても地域によって集まる場所が多様でよいと思いました。

今後も市内に様々な居場所が増えることを願い、招かればお話に行きたいと思います。

「みんなでつくる音楽祭」から生まれたつながり

熊田友里子（家族・地域支援学科1年）

12月3日（土）、第3回みんなでつくる音楽祭in小平が中央公民館で開催されました。音楽のジャンル、年齢、障害の有無などあらゆる意味で「ボーダレス」をテーマにした手作りの音楽祭で、出演団体・個人66、来場者1800人、ボランティア190人が参加しました。音楽以外でもフラダンス、鈴木囃子、ワークショップ、喫茶、障害者作業所などの製品販売、さらに白梅学園清修中高一貫部の鉄道ジオラマ模型の展示もありました。

私は第1回開催の準備段階から実行委員をしています。当時高校3年生で、地域とのつながりは全くありませんでした。

一から自分たちで音楽祭をつくっていくためには、地域の方々と日々つながっていることがどれほど大切なことかを痛感しています。実行委員会は皆が平等な立場で発言できる中で、それぞれができる範囲で役割を持てる、大切な居場所になっています。

地域活動をもっとやりたいと思い入った白梅では、高齢者・障害者の暮らしの環境について考える機会が多く、地域で支えるためにもつながりづくりが欠かせないと意識するようになりました。音楽祭はその意味でも小平で大きな役割を担っていると思います。

最初は大人ばかりだった実行委員会も、今では武蔵野美術大学、津田塾大学、嘉悦大学の学生も加わり、それぞれの分野を生かして活躍しています。これからも他大学の学生とも力を合わせつつ、音楽祭で得た人脈や学びを生かして、学生の地域へのかかわり方を模索していきます。

第15回白梅介護セミナー・2017年家族・地域支援セミナー報告

安心して暮らせる地域づくり
－総合事業から多世代あんしん包括事業へ－

杉本豊和（子ども学部 家族・地域支援学科）

2017年２月５日、白梅学園大学に於いて「安心して暮らせる地域づくりー総合事業から多世代あんしん包括事業へー」と題して第15回白梅介護セミナー・2017年家族・地域支援セミナーが開催されました。当日の内容を簡単に報告します。

まず第一部では、東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科准教授の高野龍昭先生に「新しい総合事業と地域包括ケアシステム～2025年問題と2040年問題を背景として」と題した講演をいただきました。この中で先生は「地域包括ケア」の端緒や地域ケアシステムの二面性（「まちづくり」と「費用の抑制」）について解説していただくと同時に、2025年問題・2040年問題について詳細な数字を示しながら、後期高齢人口の増加と介護費用増加の課題をご提示いただきました。その後、新しい地域支援事業の内容をご解説いただき、その中で今後はボランティアや雇用労働者も介護保険サービス提供者となっていくという総合事業のポイントについてご講義いただきました。

この講義を受けて第二部では、東京都北区健康福祉部介護医療連携推進担当課長の小宮山恵美氏、小平市健康福祉部高齢者支援課地域支援担当係長の高田宗男氏、NPO法人NPOいきがいサロンオリーブ理事の櫻田誠氏、いいあるきネットｉｎくにたち実行委員長の山路憲夫氏を招いてシンポジウムが行われました。小宮山氏は、23区で最も高齢化率が高いという北区での在宅介護医療連携推進について、在宅介護医療推進会議の設置のとりくみをお話いただきました。高田氏からは相対的に高齢化率が穏やかな小平市における生活支援コーディネーターの配置や生活支援体制整備協議会の立ち上げ等、生活支援体制整備事業の取り組み内容をご報告いただきました。櫻田氏からは総合事業が実施される以前から主体的にＮＰＯを立ち上げボランティア活動の一環として介護予防や生きがい活動に取り組んできた事例をご報告いただきました。山

路氏からは８年前から取り組まれてきた認知症の方の「徘徊」に対する取り組みとしての「いいあるきネット」の内容及び他職種連携による認知症研修である認知症アクションミーティング等の取り組みをご報告いただきました。

全体としては、高野先生の報告にもあるように、今後の後期高齢者と認知症高齢者の急増を考えると、財政的にもサービス供給主体の点でも本格的に地域包括支援を住民全体を巻き込んで実施する必要が急務ではあるが、制度に馴染みにくいボランティア的な働きをどのように制度に組み込んでいくのか、またシンポジウムの報告にもあったように総合事業実施前から積極的に取り組まれてきた地域の自主活動をどのように評価するのか、そして本格的に地域住民全体を巻き込むためには意識改革が必要であり、そのために顔の見える関係や絆作りといったソーシャルキャピタルの造成を推進していくことが重要であると確認されました。

コミュニティ・サロンほっとスペースさつき
4周年記念慰労会開催

森山千賀子（子ども学部 家族・地域支援学科　ほっとスペースさつき運営委員）

2017年2月28日にほっとスペースさつきは、4周年を迎えました。それに先立って2月25日に「梅の花国分寺店」で、４周年記念慰労会を開催し、当日は23名のスタッフと運営委員等が参集しました。2月23日の開所日には東京MXテレビの取材がさつき入り、その時の様子の写真などをパワーポイントに取り込み映す予定でしたが、プロジェクターの不具合で映し出すことができませんでした。そうしたハプニングもありましたが、終始和やかな雰囲気で慰労会を終えることができました。

今年は5年目に入ります。よい1年を過ごしてゆきたいと思います。

お知らせ

3月19日（日）19：00～19：59（再放送：25日（土）14：00～14：59）に、東京MXテレビ：番組名「トウキョウもっと！２元気計画研究所」、企画内容ーもっと多世代交流が活発な東京になるために！で、“ほっとスペースさつき”の様子が数分間放映されます。東京都議会が提供する番組だそうです。

皆さん、コミュニティ・サロン（下の①～⑤）と「中学生勉強会」（④）に足を運んでみませんか？

お待ちしております！　（右の地図を参照）

①　ほっとスペースさつき

毎週火曜と木曜　10:00~16:00

問合わせ：渡辺　穂積

TEL: 042-344－7412

②　ほっとスペースきよか

毎週月曜　10:00 ～15:30

問合わせ：石川　貞子

TEL:090－7732－2089

③　アットホームはぎ

毎月 7, 17, 27 日：14:00～17:00

問合わせ：萩谷　洋子: 042-342-1738

④　「分かった会」小中無料学習教室

毎週木曜日　18:00～20:30　（小川公民館）

問合わせ：奈良　勝行　（講師募集中！）

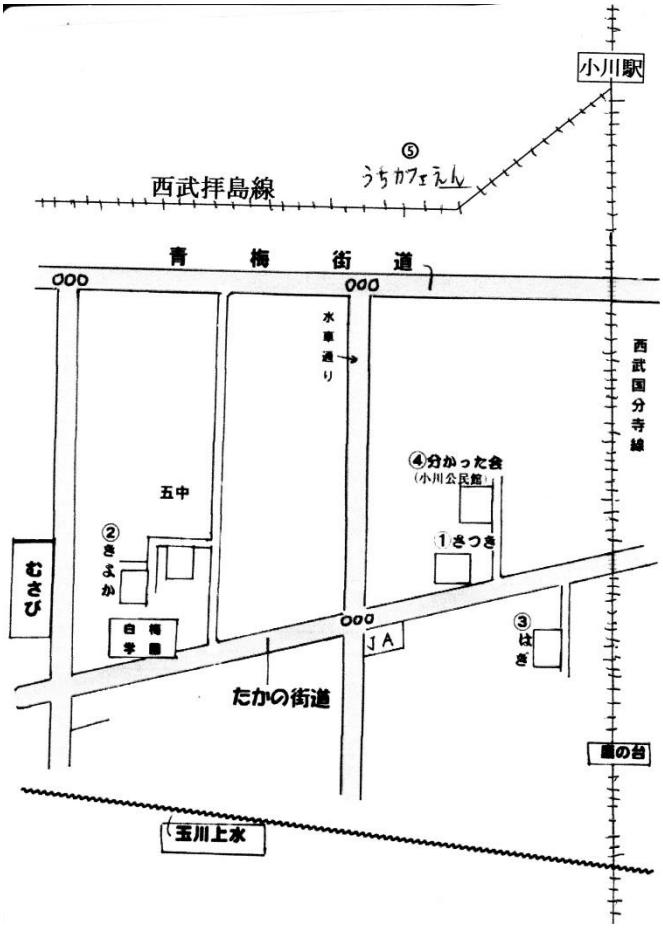
TEL:090-4435-4306

⑤　子育てサロン「うちカフェえん」

毎週月・水・木・土 10：00～15：30 分

問合わせ：伊藤絹代（小川西町 5－40－9）

TEL: 090-5441－6219



イベントの予定

3 月 21 日（金）15 時～第一ブロック懇談会（職業能力開発総合大学校（地震体験を含む）

4 月 1 日（土）白梅学園大学・短期大学入学式

西ネットの今後の予定

学内会議：4/11, 5/23（予定）
世話人会：5/9, 7/4（予定）
懇談会　：6/13,　9/12（予定）

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	学内世話人
1	西　克彦・丸山安三	瀧口　優・ 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・ 久保田進・穂積健児・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 瀧口眞央・西方規恵 牧野晶哲
4	桜田　誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・杉本豊和 森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体（者）の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当（奈良まで）お申し出下さい。

投稿募集：このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください（奈良勝行）。

メール：ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp

編集後記：　時の流れは人との出会いと別れをともないます。悲しみとともに、どんな人と出会えるのかと期待もあります。春光にいざなわれ触れ合うのもいいものです（A）